



▲交流宣言書を掲げる小笠原市長（左）、白石区長（右）と立会人の白石市長（中央）

永遠の友好と交流を

登別市・札幌市白石区交流宣言署名式

11月26日(土)、札幌市の白石区複合庁舎で開催された『白石区ふるさと会設立40周年・白石郷土館開設記念式典』において、登別市長と札幌市白石区長による『登別市・札幌市白石区交流宣言』の署名を行いました。

札幌市白石区と登別市は、宮城県白石市の仙台藩白石城主片倉家の主従が明治の初めに移り住んだという共通の歴史があり、その歴史的なゆかりから、宮城県白石市を含めた一区二市の交流が続いています。

署名式では、登別市と白石区の永遠の友好と変わらない交流を誓いました。

11/26

『協働』について
共に考え、共に学ぶ

登別市協働のまちづくりセミナー

11月26日(土)、ホテル平安で『登別市協働のまちづくりセミナー』（市主催）を開催し、40の方が参加しました。このセミナーは平成25年から開催しており、今年も『NPOファシリテーションきたのわ』の宮本泰さん・東田秀美さんを講師にお招きし、協働の講話とグループワークを交互に行う形式で実施しました。

グループワークでは参加者が6つのグループに分かれて、「私の身近にある『協働』ってなんだろう？」などのテーマについて、講話の内容を踏まえて活発に意見交換を行い、協働のまちづくりへの理解を深めました。

11/26



▲協働について熱心に意見を交わす参加者

11/27

誰もが暮らしやすい
地域社会を目指して

『あいサポート運動』協定締結式

11月27日(日)、しんた21で、鳥取県の平井伸治知事をお招きして『あいサポート運動』協定締結式』（市主催）を開催し、鳥取県と登別市で『あいサポート運動』の協定を締結しました。

『あいサポート運動』は、多様な障がいの特性や障がいのある人が困っていることなどを理解して、ちょっとした手助けや配慮を実践することにより、誰もが暮らしやすい地域社会をつくっていく運動です。平成21年に鳥取県が開始してから、7県・2市・5町が鳥取県と協定を結び、この運動を推進しています。この協定の締結は、北海道の市町村としては初めてであり、全国の市では3番目となります。

協定締結後に平井知事は、「『あいサポート運動』を継承してくれたことにありがたく思う」と述べ、「北の大地で、登別市と共生社会のモデルをつくっていききたい」と話しました。

市は、今回の協定を基に鳥取県と連携を図り、『あいサポーター研修』の実施やサポート企業・団体の認定制度の運用など、『あいサポート運動』の周知や、『あいサポート運動』を実践する『あいサポーター』の養成に取り組んでいきます。



▲協定式のオープニングに行われた『湯乃華太鼓』による和太鼓の演奏



▲協定書を掲げる平井知事（右）と小笠原市長（左）